

\*\*\*\*\*

「海の生き物を守る会」メールマガジン No. 85

2011.9.16 (金)



Association for Protection of Marine Communities (AMCo)

Homepage : <http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

\*\*\*\*\*

「今月の日本の海」 銚子市君ヶ浜



君ヶ浜は、半島状に太平洋に飛び出した千葉県銚子市の犬吠埼の北側に位置する。関東地方でもっとも東にあり、太平洋から登る日の出を最初に見ることができる



ことで有名な場所でもある。半島の北側に利根川の河口があり、利根川から供給される砂によって、砂浜が 1km にわたって弓なりに続いている。しかし、近年、砂の流出が続き砂浜は往時の半分以下に減少している。砂浜の消失を防ぐ目的で、国交省は砂浜の沖に人工リーフを建設した。人工リーフは、それまでの離岸堤が景観を壊すという意見に配慮して、海面上に姿を見せないように海面下に作った離岸堤である。天然のサンゴ礁を模したと説明板にはある。どの程度、人工リーフが砂の消失に効果があるのかは、不明。(向井宏撮影)

\*\*\*\*\*

目次	「今月の日本の海」 銚子市君ヶ浜・・・・・・・・・・	1
1.	海の生き物とその生息環境に関するニュース・・・・・・・・	2
2.	「海の生き物を守る会」の活動について・・・・・・・・	10
3.	海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報・・・・・・・・	11
4.	きらめく動物たちの命と海 久保田信の白浜だより（その11）・・・・	24
5.	事務局便り・・・・・・・・	26
6.	編集後記・・・・・・・・	27

\*\*\*\*\*

## 1、海の生き物とその生息環境に関するニュース

### 【国際】

#### ●中国でまた大規模な原油流出 渤海湾

中国政府は、6月に渤海湾の海上油田で大規模な原油流出事故が発生したと発表した。この油田は中国の国営中国海洋石油総会社とアメリカのコノコフィリップス中国石油が共同で開発している蓬莱油田である。これまでに4240平方kmの海が汚染された。中国政府は、運営会社のコノコフィリップス中国石油に対し、原油生産を中止し、8月末を期限として、油漏れの場所を特定すること、そこを完全に封鎖するよう命じた。中国国家海洋局は声明で、「原油流出地点が十分に封鎖され、追加流出の危険が除去されるまで生産作業再開は認められない。また別の流出事故がいつでも発生しかねず、追加的な原油流出は海洋生態系に莫大な脅威となるだろう」とした。中国海洋石油総会社は、原油流出事故は「統制されている」と述べたが、最近でも少量の原油漏出が続いていることが確認されている。コノコフィリップスも8月末に出した報告書で、封鎖は完全に行われたとしたが、現地ではいまだに20隻以上の船で除去作業が続いている。国家海洋局は、油は完全に止まっていないとして、蓬莱油田の生産停止を命令した。渤海湾の油田は中国の原油生産の57%を占める中国最大の石油産地であり、蓬莱油田は、その中でも指折りの巨大油田であるので、中国の原油生産に与える影響はおおきだろう。しかし、それ以上に、昨年の大連のパイプラインの爆発事故など原油の中国沿岸での大規模流出事故が、毎年のように続いており、海の生態系へ与える影響の深刻さが懸念される。渤海湾は朝鮮半島西海岸とも一帯であり、韓国政府は漁業への影響も心配している。

### 【東北】

#### ●三陸復興国立公園 来年度指定へ 面積は変化無し

環境省は、三陸沿岸の自然公園をつないで三陸復興国立公園（仮称）を構想しているが、来年3月までに計画ビジョンを策定し、2012年度中に同公園を指定する考えを明らかにした。また、中央環境審議会自然環境部会では、復興公園の範囲は、当面、既存の自然公園の範囲を拡大しないこととした。現段階の範囲拡大は、被災者に困惑を与える恐れがあるというのが、その理由だ。

### ●田老地区の居住区を山側に限定へ

岩手県津波防災技術専門委員会は、盛岡市内で会合を開き、県内の海岸防潮堤などの海岸保全施設の整備方針を非公開で議論した。その中で、津波被害の大きかった宮古市田老地区については、二重の防潮堤を築き、そのうち海側の第一防潮堤と陸側の第二防潮堤の間の地区は、原則として非居住地域とすることとし、居住地域は第二防潮堤の山側に限定することを決め、住民の移転を進めて街づくりを行うこととした。防潮堤を二重に作るこの意味は、住宅への浸水を防ぐためとされているが、その効果はよく分からない。

### ●宮城県 水産特区を導入へ 連絡会議発足

水産特区構想を発表している村井宮城県知事は、水産業の復興策を話し合うための「宮城県沿岸漁業復興連絡会議」を発足させた。参加するのは、県職員と宮城県漁協。今月6日の初会合では、県が策定中の水産業復興プランや関連施策を説明した。今後は、特区構想で民間企業の漁業参入などが話し合われる予定という。民間の参入に関しては、漁協が反発を強めており、なんとか実現したいとする県知事が、漁協を説得するための連絡会議を設けたようである。県では、「情報共有を図り、県と漁協が一丸となって、復興を急ぎたい」としているが、その真意は十分透けて見える。

### 【関東】

### ●ドンコから暫定基準超のセシウム 日立沖

茨城県は、日立市の会瀬沖で採取されたエゾイソアイナメ（通称ドンコ）から、540ベクレル/kgの放射性セシウムが検出されたと発表した。国の暫定基準値は、500ベクレル。エゾイソアイナメは底魚で、主に底曳き網で漁獲される。9月1日から底曳き網漁が解禁になったが、これまでのところエゾイソアイナメは市場に出されていない。福島第一原発事故のあと、高濃度の放射能で汚染された海水が海に放出されてから、種々の海の生き物から基準値を超える放射性物質が検出されるようになった。浮き魚のみならず、底魚からも検出されたことから、汚染が各地の海底の堆積物やベントス（底生生物）へも進んでいるこ

とを伺わせる。

## ●「行徳鳥獣保護区」の干潟が消失？

千葉県市川市の「行徳鳥獣保護区」は、1979年に東京湾の埋立による野鳥の保護を目的に作られた人工的な干潟を含んでいる。隣にある宮内庁の「新浜鴨場」とともに、多くの水鳥が訪れている都市の中の水場公園というところである。「行徳鳥獣保護区」の「百合が浜」とよばれる干潟部分が、東日本大震災によって大部分が消失したことが分かった。大潮の干潮時でもほとんど姿を現さず、干潟の面積は1割以下になったという。原因は、地震による地盤の液状化により、干潟の泥が沖合の深みに流され、干潟の地盤が70~80cmも低下したことによると見られる。訪れる野鳥などは、残ったわずかの干潟部分に集中し、「難民キャンプ」状になっている。7月に2度の調査を行った東邦大学の風呂田利夫教授によると、この干潟には千葉県の絶滅危惧種に指定されているトビハゼやウモレベンケイガニが生息しているが、これらの希少生物を含め、干潟の生物の生息場所がなくなったため、「世代が続かない生物も出てくるだろう」と、干潟における生物の多様性が失われる危険性を訴えている。

## ●来年4月の潮干狩りに向けて復旧作業 三番瀬海浜公園

東日本大震災によって、東京湾奥部の人工海浜は液状化による砂の流出、砂浜の亀裂、護岸の崩壊や傾き、突堤の湾曲などの被害を受けており、三番瀬干潟など市民が水辺に触れることができる三番瀬海浜公園も立入禁止になったままである。昨年の春は14万5千人が潮干狩りに訪れたが、今年は立入禁止で潮干狩りはできなかった。海岸の護岸や人工海浜を管理する千葉県企業庁は、公園を管理する船橋市が公園の通路などとともに、来年春の潮干狩りシーズンに向けて公園の通路や砂浜の整備などを行う予定である。しかし、企業庁によると被害の全体像はまだ調査中で、本年度中に明らかにして、全体をどこまで補修するか考えるとしている。潮干狩りもそうだけど、普段も人々が海に親しめるように、立入禁止の措置を早く解除できるようにして欲しいものである。人工砂浜や人工干潟にお金をかけず、海の自然の過程をそのまま観察できる方が、良いのではないだろうか。前日に撒かれたアサリを掘って帰るだけの潮干狩りには、海に親しむという本来の潮干狩りの意義はなくなっている。

## 【北陸】

### ●海ゴミ拾いで日本海をきれいに？

環日本海環境協力センターが企画した「海辺の漂着物調査」が9月6日に、富山県高岡市太田の松太枝浜で行われた。参加したのは小学生や老人クラブの会員ら約40人ほど。海岸に10m四方の区画を3つ作り、その中の漂着物を拾い集めて、8種類に分類し、それぞれの重

さや数を調べた。主なものはペットボトルやプラスチック類、発泡スチロールが多く、その多くが日常の生活から出ていることを参加者は知り、ごみを捨てるのが海を汚すことになると話していた。この活動には、日本海周辺の日本、韓国、中国、ロシアが参加しており、「環日本海・環境サポーター」に登録して活動している。今後、富山県では、射水市、富山市、氷見市、朝日町などで実施される。日本海の漂着ゴミは、国際的な取り組みが必要で、少しずつ進んでいる。しかし、日本海の汚染では、ゴミ問題はほんの一部。原油流出などに比べるとゴミ問題の解決で環日本海の環境が守れるとは思えない。でも、海辺に来て、汚れていると実感することも大事なのだが。

## 【近畿】

### ●浸食目立つ新舞子海岸を復活へ たつので養浜事業

兵庫県たつの市御津町にある新舞子海岸は、西日本では有数の砂浜・干潟として知られているが、近年砂浜の侵食が進み、事態は深刻になっている。昔は沖合数百 m まで干潟が出現して、春は潮干狩り、夏は海水浴に利用されていた。自然海岸の浜として有名であったが、その砂浜の流出が目立ち始めた。たつの市によると、これまでは、東方向に流れて砂が、潮や川の影響によって西側の浜に寄せられ、ほぼ一定の砂浜が形成されてきていたが、堆積と流出のバランスが崩れたことで、砂浜の流出が顕著になってきたという。兵庫県では、新舞子海岸の東側に流れる富島川の河口部の砂を掘り出して、西浜に運び、砂の減少が著しい西浜の海岸を修復する計画を策定した。運ぶ砂は9000立米で、西浜の沖合には自然石を積んで堤を作り、砂の流出も防止する計画という。この計画の結果を見て、東浜の養浜も検討することになっている。この報道では、河口部の砂を掘り出す意味がはっきりしないが、多くの養浜事業で使われる砂は、港湾の浚渫土砂であることが多い。土砂の捨て場所に困って、養浜事業へ持ってくるものもあるが、それでは健全な砂浜は形成されない。砂の質、粒径など良質の砂を選ぶ必要があり、西日本有数の新舞子浜の砂浜と干潟をどうやって守れるか、生物研究者も含めた検討委員会をつくって十分検討して欲しい。土木専門家だけでやると、けっして良い方向は生まれてこないからだ。

## 【中四国】

### ●経産相が「上関原発建設は困難」「いずれゼロに」 発言したとたん辞任へ

新しく発足した野田内閣の鉢呂経済産業相は、原発を新規に建設することは困難だと述べた上に、新規建設をしない以上、いずれ国内の原発はゼロになると明言した。中国電力の上関原発建設計画の工事再開は困難であるとの見方も示した。野田首相が現在停止中の原発の再稼働に前向きな姿勢を示している中で、鉢呂経産相がそのような見通しを述べてことはきわめて注目された。ところが、内閣発足後、一週間たったところで、子供の遊びのような発言で、引責辞任させられた。これには、上述のような鉢呂経産相の発言に危機感を抱いた経済界や自民党による猛烈な圧力があつたと言われている。

## ●原発反対派と推進派が一騎打ち 上関町長選

中国電力の上関原発建設を推進してきた現職の柏原上関町長の一人勝ちと思われていた上関町長選挙（今月 25 日投開票）に、反対派の山戸貞夫さんが、選挙説明会の当日の朝、急遽立候補を表明した。山戸氏は、出馬会見で、「原発推進が国策の時代は終わった。新規立地の上関原発はできないだろう。原発のない新しい町づくりを進めるには過去 30 年の歴史を知っている人間が必要だ」と語り、原発反対で町づくりを進めることを宣言した。一方の柏原現町長は、福島原発事故後は、表だって原発推進を表明することを避け、原発を選挙の争点にしないようにしてきたが、原発を建てさせない祝島島民の会代表の山戸氏が立候補したことにより、原発推進と反対が真っ向から闘う図式ができあがってしまった。全国の原発新規立地地点としては、初めての首長選挙で、推進派と反対派が一騎打ちの構図となりそうだ。山戸氏が当選すれば、上関原発建設計画には最後のとどめとなるであろう。

## ●宍道湖の塩分成層のメカニズム解明へ

島根県では、宍道湖の塩分成層のメカニズムを明らかにして、水質汚濁を改善するために、宍道湖中心部の湖底で、10 分間隔で塩分など水質を自動測定する装置を設置し、調査を始めた。塩分成層の形成やその変化の様子を探る。日本海→中海→大橋川→宍道湖と流入する塩水の流入量やその変化が気象条件などの違いによってどのように影響されるかを調べる。

## ●宍道湖のアオコ 実は別種と判明

これまで知られているアオコ（学名ミクロキスティス・アエルギノーサ）が宍道湖では夏になると大発生して、水質汚染に大きく寄与していたが、近年、アオコの発生が冬になっても収まらず、また、水質の改善の指標とされる水草の増殖が宍道湖内の各所で見られるにも拘わらずアオコの発生が続いており、その理由に専門家も首をかしげていたが、このたび、島根県環境政策課が発表したところによると、近年宍道湖で大発生しているアオコは、これまでと異なった別種のアオコ（ミクロキスティス・イクチオブラーベ）であることが明らかになり、これまでの謎が解けた。しかし、二種のアオコが夏と冬にそれぞれ大発生して水質悪化に寄与することとなれば、またその対策には頭を痛めることになる。

## ●南方系魚やクラゲが日本海に出現

山口県下関市沖の日本海に、南方系の魚である「カタボシイワシ」が捕獲されたと、山口県水産研究センターが発表した。この種の捕獲は過去一度あるのみで、下関沖が対馬暖流域におけるこの種の分布の北限にあたるだろうと説明している。捕獲されたカタボシイワシは、全長 11.7cm の幼魚で、カタクチイワシなどの漁獲物に混じっていたのを発見された。また、このほかにも、熱帯産といわれるエビクラゲも同じ頃長門市仙崎の日本海深川湾で

発見されており、日本海では珍しいとされている。この時期に、南方から普段よりも日本海へ多めの海流の流入があったのだろうとされている。

### ●周防大島南海域を調査 環境省 海域公園指定へ

山口県周防大島の南東沖には、日本最大級と言われるニホンアワサンゴが群生していることが最近の調査で明らかになったが、環境省ではこの一帯を海域公園地区に指定する方向で、本格的に現地調査を始めた。潜水調査などによって現状を把握し、瀬戸内海では初めての指定となる予定。調査では、周防大島町の沖家室島近くの岩場でウミシダやウミイチゴなどが美しい色を見せる海底環境を確認し、多くの魚が群れる姿も撮影した。同町のニホンアワサンゴの群生は、約 1000 m<sup>2</sup>に広がっており、この貴重な海洋景観を保護しようと、同町から環境省に海域公園地区指定を求める要望書を提出していた。環境省も、ようやくその気になったようだ。

### ●徳島でも千年サンゴの保護に協議会 オニヒトデ駆除

徳島県の牟岐大島では、世界最大級のハマサンゴ「千年サンゴ」を守ろうと、NPO 法人などが協議会を結成し、サンゴの天敵のオニヒトデの駆除活動を行う体制を作った。徳島県牟岐町、NPO、ダイビングサークルなど 8 団体が結成したのは、「千年サンゴと生きるまちづくり協議会」。さっそく今年も 50 人体制で大がかりなオニヒトデの駆除活動を行う。駆除したオニヒトデは、その毒を利用して、陸上の山林に置いてシカの駆除にも役立てられないか試験を行っている。ハマサンゴの群落は、それ自体のみで生息できるものではなく、周辺の多くのサンゴ類や動植物とともに全体として保護する必要がある。オニヒトデといえどもその群集の一員である。オニヒトデも過剰な繁殖をしない限り、サンゴ礁群集の一員として受け止める考えが必要である。オニヒトデを悪者にする発想には違和感を感じてしまうが、シカを寄せ付けない効果があれば、それは新しい効用でもある。結果が期待される。

## 【九州】

### ●13年前のアカウミガメ 渥美半島から対馬へ

愛知県の渥美半島で 13 年前に放流されたアカウミガメが、長崎県対馬市の尾崎湾で定置網に掛かっているのを発見された。前足にチタン製の標識がついており、連絡先も書かれていた。アカウミガメは、元気で捕獲され、放流した名古屋港水族館に返された。放流した渥美半島の赤羽根海岸と対馬の距離は 700km 以上ある。名古屋港水族館では、ほぼ毎年のようにアカウミガメなどを放流しているが、標識が 1-2 年で外れてしまうことが多いので、放流したウミガメが 10 年以上たってから見つかるのも珍しいという。標識からこのアカウミガメは、1996 年に人工孵化させて 1998 年に放流した雌であることが分かった。水族館などで飼育しているアカウミガメと比べて、成長が遅く、飼育しているものの 6～7 歳の

ウミガメくらいの大きさしかなかった。野外では過酷な環境の中で生きることがよくわかる。同水族館によると、渥美半島で放流したアカウミガメは、北太平洋で餌をとり成長した後、日本近海に戻る。夏に鹿児島沖で過ごし、秋になると北上するらしいと言う。まだまだ大洋でのウミガメの生態は不明な部分が多いようだ。

### ●農水省は全面開門の意志なしか 諫早干拓潮受け堤防

農水省は、裁判所から長期の開門調査を行うように判決で命令されているが、このたび来年度予算要求で、4通りの調査方法のうち、もっとも開門の割合が少ない制限開門調査の費用を計上した。農水省が検討していた4通りの開門調査方法は、(1)全面開門、(2)段階的に開門し、最後には全面開門する、(3)調整池の水位変動を70cmになるように制限開門する、(4)水位変動を20cmにとどめる制限開門。このうち、もっとも影響の少ない(4)の方法をとることにしたものだ。要求額は、十数億円。しかし、この方法は、3ヶ月の短期開門調査で使われた方法で、その時の結論では、有明海全体には影響がないことが実証されたもの。有明海への諫早干拓事業の悪影響を排除するための長期開門調査なのに、これでは何の意味もないと、漁業者や佐賀県側住民から批判されることが予想されている。農水省が6月に発表した開門調査のための環境アセスメント結果素案では、どの方法でもアサリの不漁や農地への潮風被害が生じると指摘して、開門調査をできるだけやらない方向に世論を誘導しようという姿勢がありありであった。そして、対策費は最大1077億円かかると試算した結果の予算要求がわずか十数億円。農水省の意識的不作為が、有明海を死の海にしてしまう可能性がある。許されない農水省官僚の詐欺的行為だ。政治家はいったい何をしているのだろうか。2013年12月の履行期限までに、農水省を全面開門に追い込み、豊壊の有明海を回復させる必要がある。

### ●諫早開門「誠実に履行を」 水郷水都全国会議が決議

第27回目を迎えた水郷水都全国会議が、諫早で大会を開き、福岡高裁の判決が確定した以上、国は潮受け堤防を開門する義務を負うとして、開門を誠実に実行するよう求める大会決議を採択した。水環境問題などに詳しい研究者らでつくっている水郷水都全国会議は、今年全国から130人を集めて諫早で全国大会を開いたもの。ダム問題にも言及した代表の大熊新潟大学教授は、「ハッ場ダムも諫早問題も根は同じ。今までの公共事業のあり方を同方向転換するかが問われている」と述べた。決議では、制限開門ではなく、段階的に開門し最後には全開にする方法を採用すべきだとしている。

### ●都会の川でナルトビエイが群泳

福岡県北九州市小倉北区の都会の中を流れる紫川の下流で、幅が1mから1.5mの大きさのエイが群れをなして泳いでいるのを、市民が見つけた。噂を聞きつけて多くの市民が見物に訪れた。このエイは、ナルトビエイという種で、近年、有明海や九州西海岸に大量に出

現してアサリなどの貝類やスナモグリという甲殻類を食べあさり、周辺の底生生物群集の構成を変えてしまうほどの影響を持っている。漁業にも大きな被害を与えるようになった。海の温暖化にともなって北上する南方系の魚類の例として、有名になったエイである。紫川では、最大 9 匹を見たという市民もいる。アサリやムラサキイガイなどの貝類を求めて河口付近の川を遡ったのではないかと思われる。

### ●晩夏の海辺にサキシマフヨウ 五島・高浜海水浴場周辺

長崎県五島市三井楽町の高浜海水浴場の周辺で、サキシマフヨウが咲き、海辺に彩りを与えている。浜辺近くに群生し、直径 10cm ほどの淡いピンク色の大きな花を咲かせている。青い海や空に映えて、美しい。サキシマフヨウは、アオイ科の植物で、沖縄の先島諸島の浜辺に多く分布することから名付けられた。沖縄や長崎県の福江島、五島列島などに見られる。三井楽町の高浜は、「日本の渚百選」にも数えられている景勝の海岸。

### ●セイタカシギが飛来 一足先の秋の訪れ

鹿児島県徳之島町諸田池に秋の訪れを感じさせるセイタカシギが飛来している。飛来したのは 5 羽。他にもアオアシシギなども飛来し、一足早い秋の賑やかな光景を作りだしている。セイタカシギは、国のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている浜辺や水辺の鳥で、ユーラシア大陸の南部からフィリピン方面へ越冬のために渡るが、長い渡りの途中に日本に立ち寄る個体も見られる。

## 【沖縄】

### ●政府は辺野古をあきらめず 沖縄県との交渉を本格化

日本政府は、普天間基地の移設先に辺野古のキャンプシュワブ付近の海を埋め立てて、新しい基地を作る計画を再び本格的に始動し始めた。防衛省は今年12月までに辺野古移設に向けた環境アセスメントの評価書を仲井真弘多沖縄県知事に示す方針を固めた。さらに、来年6月までに海面埋め立ての申請を知事に提出する予定としている。野田首相が訪米するときの手みやげに、辺野古基地建設の工程表をオバマ大統領に渡すのが目的のようだ。中江防衛次官が仲井真知事と歓談した際、この方針を伝えたが、仲井真知事は具体的な返事はせず、不快感を表した。

### ●名護市長は強く反発

中江防衛事務次官が仲井真知事に会い、辺野古への基地移転の工程表を示したことに、稲嶺名護市長は、強く反発した。市長は「MV22オスプレイ配備が明らかなのに、配備を前提としたアセスが行われていない。それでちゃんとした評価書がだせるのだろうか」と疑問を呈した。市長はさらに日米合意を盾に県民や市民の声を聞かず、作業を進める国に対して「米国への配慮はあっても、県民への配慮は足りない」と不信感を明らかにした。

## ●泡瀬干潟の海草を調査 海草、土砂に埋没か

裁判所に経済的合理性がないと批判された沖縄県泡瀬干潟の埋め立て人工島建設工事は、一期工事の埋立が進む中、多様な生物が次々と姿を消している。日本資源保護協会では、泡瀬干潟で海草の調査を行った。泡瀬干潟には小型の海草（コアマモ、ウミジグサ、マツバウミジグサ、ウミヒルモ、ヒメウミヒルモなど）や大型海草（リュウキュウアマモ、ポウバアマモ、リュウキュウスガモ、ベニアマモなど）の多数の海草が豊に広がる沖縄でも有数の海草藻場（アマモ場）だったが、埋め立て工事の影響によって、次々と姿を消している。沖縄総合事務局は、「工事の影響ではなく、台風の影響である」と言っているが、毎年のように台風が襲う沖縄島で、これだけの豊かな海草群落が生育している現実の前には、ウソがすぐばれてしまう。埋め立て工事の環境アセスメントには、「工事の影響による環境の変化が著しければ、工事を中断してその影響を調べる」と書かれており、工事の影響をなんとしても認めたくない事業者のgori押し論理がまかり通っている。日本自然保護協会は、市民の手でそのウソを暴き、工事の中断をさせることができると信じて、調査を進めている。現在のところ、海草藻場が土砂に埋没して姿を消したと思われる証拠が見つかったりしている。

## 2. 「海の生き物を守る会」の活動について

### ●今年も「パタゴニア」のVYCに

昨年、スポーツ用品「パタゴニア」の大阪のアウトレット江坂店で行われたボイス・ユア・チョイス（VYC）に参加させていただき、お客さんの投票で「海の生き物を守る会」が1位になり、20万円の寄付金をいただきましたが、今年も江坂店のVYCに参加させていただけることになりました。期間は、9月8日から10月5日まで。お近くの方は、ぜひパタゴニアのアウトレット江坂店にお出かけになり、海の生き物を守る会に投票をお願いします。パタゴニアのVYCについては、[http://mpse.jp/pata\\_jp/c.p?02c6n2L7fpL](http://mpse.jp/pata_jp/c.p?02c6n2L7fpL) を参照してください。Webからでも投票できます。

#### ■ボイス・ユア・チョイス Fall 2011

パタゴニアでは私たちが関心を持っている環境問題にお客様にもかかわっていただくための機会として、「ボイス・ユア・チョイス」を実施しています。

9月8日（木）から10月5日（水）の期間中、直営店およびウェブサイトにご訪問いただいたお客様にご参加いただき、その声をパタゴニア環境助成金の配分に反映させる「ボイス・ユア・チョイス

Fall 2011」を実施します。

各ストアにて、事前に選出しました地域で熱心に活動する市民グループ2団体の活動内容を店内、ウェブサイトでご紹介しています。製品のお買い上げの有無を問わず、投票期間中にご来店いただいたすべてのお客様に、ご来店ごとに1回の投票をしていただくことができます。

また直営店にて投票にご参加いただいたお客様には「Did You Vote?」(のメッセージ入り)オリジナル缶バッジを差し上げます。在庫数には限りがあります。無くなり次第終了となりますのであらかじめご了承ください。

プログラムの詳細はパタゴニアのウェブサイトをご覧ください。皆様のご参加をお待ちしています。VYC プログラム詳細については>

<http://www.patagonia.com/jp/patagonia.go?assetid=36468&ln=414>

## 3. 海の生き物に関する運動・行事・他の団体の情報

### 【国際】

#### ●ESDのためのKODOMOラムサール<無錫>国際湿地交流

##### ～持続可能な地球のために、みんなで湿地をサステイナブル～参加者募集

趣旨・目的：ラムサールセンターは、これまで9年間にわたって「日本・中国・韓国子ども湿地交流」、「KODOMO ラムサール」、「KODOMO バイオダイバシティ」と日本のラムサール条約登録湿地の子どもたちを中心にした湿地交流活動をつづけてきました。

今年から舞台をアジアに広げ、アジアの湿地の子どもたちとついに、「持続可能な地球のために」学び、行動していく「ESDのためのKODOMO ラムサール」活動をスタートさせました。日本政府の提唱で国連が推進する「ESD（持続可能な開発のための教育）」運動に合流させる事業として、地球環境基金の助成をうけて、3年計画で実施します。

アジアの子どもたちとの交流をとおして、湿地保全への取り組みをフィールドで実施、学習して、「持続可能な社会を実現するための人づくり」を目標にしています。

環境省環境教育推進室はじめ、積水化学工業など企業、ウェットランドインターナショナル中国やインド環境協会などNGO、チェンマイ大学やマヒドン大学、日本の環境教育の専門家など大学・研究機関と協力して、活動に取り組み、「国連ESDの10年（DESD）」のゴールとなる2014年の「ESDの10年最終年会合」（日本開催）への具体的な貢献をめざします。

今回は、アジア湿地シンポジウム（AWS）の無錫での開催にあわせたイベントとして実施し、「持続可能な地球のために、みんなで湿地をサステイナブル」をテーマに、中国の

湿地について学び、日本の子どもたちの活動を中国に紹介、交流して、共同メッセージをつくって発表します。

期 日：2011年10月8日（土）～10日（月）＊2泊3日

開催地：中国江蘇省無錫市、「太湖（タイフー）」湿地

会 場：無錫市太湖国際展示場

主 催：ラムサールセンター（RCJ）、ESDのためのKODOMOラムサール実行委員会（RCJ、積水化学工業ほか）、ウェットランドインターナショナル（WI）中国

協 力：中国国家林業局湿地保全管理センター、江蘇省林業局、無錫市

協 賛：積水化学工業株式会社、無錫積菱塑料有限公司

助 成：環境再生保全機構地球環境基金

### 無錫市と太湖（タイフー）について

無錫市は中国の長江の下流域、江蘇省南部に位置する、人口約500万人の商工業都市です。市の南部には中国で3番目に大きい淡水湖（面積は約2428 km<sup>2</sup>）の太湖があり、早くから米などの農産物や太湖から獲れる水産物が豊富な地としてにぎわいました。そのため、「米と魚の故郷」と言われていました。湖にはいくつもの半島が連なり、周りは72の峰に囲まれていて、湖中には48の島が浮かぶ美しい景観として有名な観光地です。

最近の商工業都市としての発展にともない、湖の水質汚染が進みつつあり、昔の美しい太湖の環境をとりもどすためのさまざまな取り組みが進められています。

上海から鉄道か高速バスで2時間ほどの距離です。

### プログラム（予定）

#### 1日目 10月8日（土）

午前中 国内空港（成田、羽田、名古屋、関西）から上海空港へ。鉄道か高速バスで無錫市へ。

16:00 開会式 アイスブレイキング オリエンテーション

夜 子ども交流プログラム① 活動発表

#### 2日目 10月9日（日）

午前 子ども交流プログラム② フィールド学習 太湖

午後 子ども交流プログラム③ 劇団シンデレラ（藤前干潟）のESDパフォーマンス グループディスカッション KODOMO メッセージづくり、ポスターづくりに向けて

夜 子ども交流プログラム④ AWSへのメッセージとポスター「持続可能な湿地・太湖をとりもどすために」づくり

リーダー研修プログラム（先生・引率者向け）

「持続可能な開発のための環境教育」 講師:川嶋宗継(チェンマイ大学客員教授) チチョン・パララクシ(チェンマイ大学准教授)

### 3日目 10月10日(月)

- 9:00 子ども湿地交流⑤ 「湿地と生態系保全万博」会場で、KODOMO ラムサール ブースの設営・展示
- 11:00 解散 無錫市からバスで上海空港へ移動、帰国

### 4日目 10月11日(火)

KODOMO 代表が「AWS 無錫」に参加。KODOMO メッセージを発表

#### **募集対象、人数**

全国 37 のラムサール条約登録湿地およびその他の湿地で活動している、湿地に関心のある小学生(5年生以上)～高校生。定員 10 人。(引率者3人程度) 応募者が多数の場合は選考します。

#### **費用**

(1)子ども:参加費 50,000 円(国際交通費、現地での宿泊費、食費、移動費などを含む)

※出発空港までの国内交通費(前後泊の宿泊費も)は原則自己負担ですが、遠方から参加する場合は、旅費の一部(最大で半額程度まで)の補助を考慮します。

(2)引率の方:参加費 60,000 円(国際交通費、現地での宿泊費、食費、移動費などを含む)

※出発空港までの国内交通費(前後泊の宿泊費も)は原則自己負担です。

#### **参加の条件**

- (1)自然環境とボランティア活動に関心をもち、積極的に交流でき、行動できること。
- (2)身近にある湿地の情報をみんなに伝えたい、アジアの湿地のこと(とくに湿地の生きもの)を知りたい、学びたいと思っていること。
- (3)イベント終了後、1か月以内に簡単なレポートを提出すること。
- (4)イベント開催中の怪我や事故などについては、原則として自己管理、自己責任です。この点を理解、了承すること。
- (5)保護者の了解を得ること。
- (6)エコクラブや NGO などの団体に所属している子どもは、団体の了解も得ること。

#### **応募方法**

参加希望者は、募集要項を確認して、添付の「応募用紙」と「参加したい理由」に記入し、ラムサールセンター事務局まで、郵送・FAX・メールで申し込んでください。

#### **応募締切**

2011年8月20日(土)

<参加申し込み・お問い合わせ>

ラムサールセンター 担当:中村玲子(なかむられいこ)・渡辺美沙(わたなべみさ)

〒146-0084 東京都大田区南久が原 2-10-3 TEL :03-3758-7926 FAX :03-3758-7927

E-mail:ramsarcj.nakamura@nifty.com

**【全国】**

鎌仲ひとみ監督作品 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」、映画「ぶんぶん通信」、瀧澤あや監督作品 映画「祝(ほうり)の島」の上映予定はまとめて日程と場所のみを書くことにしました。詳しくはそれぞれの公式ホームページをご覧ください。

**●鎌仲ひとみ監督作品 映画「ミツバチの羽音と地球の回転」上映予定**

9月16日(金) 所沢市(埼玉県) 長岡市(新潟県)  
9月17日(土) 練馬区(東京都) 東伯郡琴浦町(鳥取県)  
9月18日(日) 中津市(大分県) 清瀬市(東京都) 米子市(鳥取県)  
9月21日(水) 鳥取市(鳥取県)  
9月23日(金) 佐伯市(大分県) 町田市(東京都) 葛飾区(東京都) 秋田市(秋田県) 西東京市(東京都)  
9月24日(土) 世田谷区(東京都) 京丹後市網野町(京都府) 大阪市阿倍野区(大阪府) 大館市(秋田県)  
9月25日(日) 新見市(岡山県) 天草市(熊本県) にかほ市(秋田県) 東御市(長野県)  
9月26日(月) 市川市(千葉県)  
9月28日(水) 倉敷市(岡山県)  
9月29日(木) さいたま市浦和(埼玉県)  
9月30日(金) 小田原市(神奈川県)  
10月1日(土) 伊賀市(三重県) 高砂市(兵庫県) 芦屋市(兵庫県) 諏訪市(長野県)

**●鎌仲ひとみ監督作品 映画「ぶんぶん通信」上映予定**

9月18日(日) 福岡市(福岡県)

- 9月19日（月） 京都市（京都府） 福岡市（福岡県）  
9月27日（火） 富士宮市（静岡県）  
9月28日（水） 佐倉市（千葉県）

### ● 額縁あや監督作品 映画「祝の島」上映予定

- 9月 16日（日） 北安曇郡（長野県）  
9月 18日（火） 奈良市（奈良県）  
北杜市（山梨県）  
9月 23日（金） 富山市（富山県）  
9月 24日（土） 渋谷区（東京都）  
9月 25日（日） 真庭市（岡山県）  
10月 2日（日） 横浜市（神奈川県）

### 【関東】

#### ● 東京海洋大学 江戸前 ESD 協議会

##### 《江戸前みなと塾 第Ⅱ部 学びのアクション 江戸前漁業の世界を知ろう》

東京海洋大学 江戸前 ESD 協議会（共同代表：石丸 隆、河野 博）は、4回連続講座「江戸前みなとを学ぼう 江戸前みなと塾 第Ⅱ部 学びのアクション」の参加者を募集します。東京海洋大学江戸前 ESD 協議会は、江戸前の海＝東京湾の恵みを、これからの世代がずっと享受していけるように、みんなで学びあうことを目的として活動しています。今回、開催する「第Ⅱ部 学びのアクション」では、江戸前漁業の昔と今を、研究者や漁業者のお話を聞き、また、江戸前の海を船で巡り、アナゴを調理して、参加した全員で体験を分かち合い、これからの江戸前の海についていっしょに考えます。くわしくは下記をごらんください。また、お申し込みには、ちらし（PDF）裏面の申込用紙をお使いください。

記

■期日：時間はおおむね午後1時30分～午後5時を予定しています

第1回 10月8日（土） 開講式、始めのワークショップ

第2回 10月22日（土） 学びのアクション1：昔の海苔漁業を知る

第3回 11月12日（土） 学びのアクション2：今のアナゴ漁を知る

第4回 11月19日（土） 終わりのワークショップ、閉講式

■場所：東京海洋大学・品川キャンパスなど（都合により場所や内容が変更になる場合があります）

■受講料：無料

■定員：10名（18歳以上）

受講される方には全回参加をお願いいたします。全回参加された方には「修了証」を差し上げます。必ずご本人様がお申し込みください。

■お申込みはFAX、電子メール、郵便でお願いします。

FAX： 03-5463-0574（ちらしの裏面に申込用紙があります）

電子メール：kawabe@kaigyodai.ac.jp

郵便宛先：〒108-8477 東京都港区港南4-5-7 東京海洋大学 8号館505号室 川辺研究室

■お申込み期限：2011年9月9日（金）

■お問い合わせは 03-5463-0574（川辺）まで

■定員を超えた場合は、お断り申し上げることもあります。どうかご了承ください。

■この講座は港区芝浦港南地区総合支所と一緒に開催します。

## ●第4回エネルギーシフトパレード

～ 震災から6カ月、犠牲者、そして自然エネルギーへの想いを込めて～

9月11日（日） 午後2時～

代々木公園ケヤキ並木入口（東京都渋谷区） 雨天決行

詳しくはこちら <http://www.greenpeace.org/japan/shift/?sup20110906>

大震災と大津波、レベル7の原発事故から6カ月。終わらない放射能汚染、失われたたぐさんのいのち。

避難のためにはなればなれになった家族。どうやったら 被災された方々の役に立てるのか・・・

多くの人が、この半年間、くる日もくる日も、精一杯のきもちで、考えてきたとおもう。

歩くことは「忘れていない」の意思表示。原子力に頼らなくても、日本の明日は大丈夫。

歩いて、声を出して、未来を変えよう。Energy Shift Now!

## ●第4回：三番瀬フィールドミュージアム観察会

秋の干潟の生きものを観察しよう！ 秋の江戸川放水路で、干潟の生きものを観察しましょう。かわいいカニたち、カキやフジツボ、ゴカイたちは、どんな暮らしをしているのでしょうか？ 何かめずらしい生きものは見つかるかな？ 専門家の先生と一緒に探検してみましよう！

問い合わせ：フィールドミュージアム・三番瀬の会 田久保 TEL 047-434-9824

日時 2011年9月11日（日） 9:00～12:00

集合 東西線 妙典駅 改札口 9:00 集合

場所 江戸川放水路（国道357号 橋脚周辺の干潟）

講師 駒井智幸氏（千葉県立中央博物館）

参加費 一般 200 円（保険代）、小・中・高生 100 円、  
会員無料（当日入会可・会費 1000 円）

持ち物 筆記用具・ルーペ・飲み物・帽子・長靴

小雨決行 申込不要 観察手帳を差し上げます

会員募集中！

## ●2011 三番瀬フィールドミュージアムの今後の予定

10月16日（日）海老川から金杉の森へ！

秋の川と森・里山緑地の植物観察会

金子是久氏（北総生き物研究会）

中村俊彦氏（千葉県立中央博物館）

12月3日（土）塩浜護岸周辺で冬の渡り鳥を観察しよう！

主催：フィールドミュージアムの会・三番瀬（事務局：TEL&FAX 043-310-3300 佐藤）

協力：千葉県立中央博物館・千葉県自然保護課生物多様性センター・千葉県野鳥の会・  
自然と文化研究会 theかもめ・NPO 法人千葉まちづくりサポートセンター

## ●原発の運転再開を許さない！全国討論会

～福島は活かされるか？各地の市民運動の最前線から～

とき 9月17日（土）午後1時15分～4時45分

場所 日本青年館 503 JR 中央・総武線各駅停車 千駄ヶ谷駅より徒歩9分 信濃町駅より徒歩9分

- ・地下鉄銀座線 外苑前駅より徒歩7分（渋谷寄り改札口を出て、3出口）
- ・地下鉄大江戸線 国立競技場駅より徒歩7分（A2出口）

参加費 1000円

お申込み：<https://ssl.form-mailer.jp/fms/4a9071f9159894>

主催：グリーン・アクション／福島老朽原発を考える会（フクロウの会）／国際環境 NGO F o E Japan ／国際環境 NGO グリーンピース・ジャパン／美浜・大飯・高浜原発に反対する大阪の会（美浜の会）

協力：eシフト（脱原発・新しいエネルギー政策を実現する会）／福島原発事故緊急会議

当日の内容

### 1. 原発立地点からの報告（佐賀、福井、石川、宮城、青森、北海道など）

定検中などの原発の状況、問題点、「やらせ」問題、地元首長達の状況、各地の運動の現状と方針共有

### 2. 運転再開を止めるために必要なことを話し合う

- ・津波対策だけの「緊急安全対策」批判
- ・ストレステストについての批判の観点
- ・津波の前に地震動で配管が破損した可能性についての検討
- ・福島原発事故がもたらしている被ばくの深刻な実態。子ども達の置かれている状況や避難の困難性等。

### 3. 運転再開を止めるための方針の議論

- ・運動の方針についての議論
- ・原発立地点と首都圏、全国の連携した取り組みの方向性について

## ● 海辺のナチュラルリスト講座（スタッフ研修特別コース）2011年度第3回

開催日 2011年9月23日（祝）～24日（土） 1泊2日

開催場所 三浦半島

募集人数 6名（最少催行人員3名）

受講費 7,000円（特別価格） ※通常受講費は13,800円

※別途、宿泊費（1泊2食付：8,000円）、食費、往復交通費

対象者 1回以上ネイチャースクールにスタッフとして参加できる方

※OWSのサポーターまたは正会員への登録が必要となります。

申込み・問い合わせ：OWS事務局までホームページから、またはE-mail、お電話にて

ご連絡ください。(TEL:03-5960-3545) ⇒ <http://www.ows-npo.org/volunteer/index.html#ns1>

## ● 造礁サンゴ分布調査 土肥探索調査（ダイビング）参加者募集

造礁サンゴ探索調査を西伊豆の土肥周辺海域で実施します。周辺の安良里や田子では、たくさんの造礁サンゴを確認していますので、土肥でも多くの造礁サンゴが確認できると思います。調査が初めての方もご遠慮なくお問い合わせください。

開催日 : 2011年9月25日（日） 日帰り

開催場所 : 静岡県伊豆市土肥通崎湾周辺

募集人数 : 6名（最少催行人員4名）

集合 : 静岡県伊豆市八木沢土肥「The101」 9:00 集合

予定価格：メンバー15,900円／非会員 17,700円

※1 ビーチ・1 ボートダイビング 保険料含む

対象者：ダイビング経験 50 本以上、ボートダイビングの経験がある人

申込締切：9月15日（木）17時までに OWS 事務局にご連絡ください。

詳しくは、こちらをご覧ください。 ⇒ <http://sango.ows-npo.org/discovery.html>

## 【近畿】

### ●第 456 回 NACS-J 自然観察指導員講習会・大阪府 受講者募集中

NACS-J 自然観察指導員講習会は、地域の生物多様性保全と持続的な地域づくりに取り組むボランティアリーダーの養成講座です。自然の観察を通して、自然の仕組みや人と自然の関わりを学び、観察会などで多くの人に伝えることで地域そして日本の自然を守ります。自然を守るために自分に何ができるのかと考えている方、気持ちのある方のお申し込みをお待ちしております。

#### ■第 456 回・大阪府

開催日 9/30～10/2

会場 大阪市立自然史博物館（大阪市東住吉区）

定員 60 人（先着順）

お申し込み締切 9/16 まで 参加費 19,500 円（食費等は含まれません）

\*NACS-J 会員以外の方は、普通会员の会費がかかります。

★以下の専用フォームからお申し込みいただけます。

<https://www.nacsj.or.jp/sanka/shidojin/order.php>

<<お問い合わせ先>> 公益財団法人 日本自然保護協会 教育普及部 講習会担当

〒104-0033 東京都中央区新川 1-16-10 ミトヨビル 2F TEL:03-3553-4105 E-mail :

[2011@nacsj.or.jp](mailto:2011@nacsj.or.jp)

\*ご希望の方には、講習会の資料や申込書を送付します \*詳しい内容は、当協会ホームページでもご案内しています ([http://www.nacsj.or.jp/sanka/shidojin/seminar\\_schedule.php](http://www.nacsj.or.jp/sanka/shidojin/seminar_schedule.php))

### ●特別展 OCEAN! 「海はモンスターでいっぱい」

大阪市立自然史博物館、秋の特別展です。

期日：9月10日（土）～11月27日（日）9:30～17:00

場所：大阪市長居公園内、大阪市立博物館ネイチャーホール



特別展

オーシャン!

# OCEAN!

海は  
モン  
スター  
でいっ  
ぱい



**大阪市立自然史博物館**  
ネイチャーホール(大阪・長居公園内 花と緑と自然の情報センター2F)

2011 **9.10** ± - **11.27** 日

【開館時間】9:30~17:00(入場は16:30まで)。  
ただし、11月1日以降は、9:30~16:30(入場は16:00まで)。

【休館日】毎週月曜日(ただし、9.19、10.10は開館)、9.20、10.11



【主催】大阪市立自然史博物館、読売新聞社 【後援】大阪コミュニケーションアート専門学校、大阪府公衆浴場業生活衛生同業組合、鯉の日委員会 【協賛】大阪工業大学、きんてん、清水建設、常磐学園、住友生命、摂南大学、ダイワボウ情報システム、日本公文教育研究会、非破壊検査 【特別協力】林原自然科学博物館 【協力】若田市立ミクロ生物館、海洋研究開発機構、笠岡市立カブトガニ博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、蒲郡市生命の海科学館、ましまだ自然資料館、京都大学総合博物館、珠洲市教育委員会、大地町立くじらの博物館、東京工業大学、どこでも博物館、栃木県立博物館、鳥取県立博物館、中川町エコミュージアムセンター、名古屋港水族館、名古屋大学博物館、日経ナショナル ジオグラフィック社、沼田町化石館、ピーアンドエー・インターナショナル、福井県恐竜博物館、ふくしま海洋科学館、三重県立博物館、むかわ町立特別博物館、早稲田大学、ACTOW、Formosoft International Inc.

【お問合せ】大阪市立自然史博物館 TEL. 06-6697-6221 <http://oceanmonster.jp/>

## 【中四国】

### ●2011年海岸生物調査（環瀬戸内海会議）

9月25日 エスコープ大阪（岬公園、場所、時間等詳細調整中）

### ●ラムサール条約リレーシンポジウム〈島根県・鳥取県連携事業〉

～ラムサール条約と賢明な利用を語る会 15～「宍道湖・中海の自然とその歴史」

この会は、関連団体の方々からの話題提供・事例発表や、参加者と発表者が意見交換することで、宍道湖・中海に関する情報を共有する場となっています。今回は「神々の国しまね-古事記1300年」事業にちなみ、ラムサール条約湿地である宍道湖・中海周辺の歴史や自然の今昔を学びます。歴史と自然の両方の切り口で両湖を見ることで新しい魅力を感じていただくことを目的としています。

#### ○話題提供

宍道湖の底から太古の森が見える？

島根県立三瓶自然館企画情報課主幹 中村 唯史氏

宍道湖・中海の形成と人々の暮らし

島根県埋蔵文化財調査センター管理グループ課長 丹羽野 裕氏

出雲風土記にみる宍道湖・中海周辺の生活と神話

島根県古代文化センター専門研究員 野々村 安浩氏

今昔、宍道湖・中海の生きものを比べてみる

島根県立宍道湖自然館主任飼育技師 佐々木 興氏

#### ○質疑応答・意見交換会

日時：平成23年9月25日（日） 13:30～16:00（受付開始13:00）

会場：秋鹿道の駅 なぎさ公園（島根県松江市秋鹿町）<http://www.s-skss.com/nagisa/>

定員：40名（要事前申し込み、無料）

#### ●申し込み・問い合わせ先：

宍道湖グリーンパーク 電話 0853-63-0787、FAX0853-63-0797

主催：島根県（環境生活部環境政策課）、（財）ホシザキグリーン財団、島根県立宍道湖自然館ゴビウス

## 【九州】

### ●2011年度日本海洋学会秋季大会 シンポジウム

#### 2012年海洋保護区国際ネットワーク形成にむけた日本の方向性

2012年9月30日(金)10:00-17:00

於 九州大学筑紫キャンパス 第1会場(筑紫ホール)

コンビーナー：清野 聡子（九大院・工）

「海洋保護区」国際ネットワークの形成が2012年を目途に国際的に進められてきた。2010年には、名古屋で開催された生物多様性条約第10回締約国会議（CBD/COP10）で決められた「愛知目標」では、2020年までに海域の10%を海洋保護区に指定する数値目標が掲げられた。同年に、環境省「海洋生物多様性保全戦略」が策定され、国内的な海洋保護区の定義が確認された。ネットワークの詳細は、生物多様性条約第11回締約国会議（インド）や世界自然保護会議（韓国）で内容が決まるとされるが、国内での開かれた議論や、実質的な活動を踏まえた上での国際ネットワークへの参加が望まれる。本シンポジウムでは、政策や活動の進展状況の情報共有を進め、日本国内の具体例と国際動向とのつながりを議論し、2012年にむけたルートマップづくりや共通認識を得ることを目的とする。

<趣旨説明>

10:00-10:15 九州大学大学院 工学研究院 清野聡子

<行政>

10:15-10:45 「愛知目標」の達成にむけて—「海洋生物多様性保全戦略」と生物多様性条約第11回締約国会議を中心として環境省自然環境局自然環境計画課

10:45-11:15 持続可能な漁業と海洋保護区のあり方

水産庁 増殖推進部 生態系保全室

11:15-11:45 国土交通行政における海洋環境保全・沿岸域管理

国土交通省 九州地方整備局

11:45-12:05 2012年麗水国際博覧会における海洋環境の位置づけ

経済産業省 商務流通グループ 博覧会推進室

13:00-13:20 福岡市今津干潟の保全・再生にむけた地域との共働

福岡市 環境局

<学術>

13:20-13:40 砂浜生態系の現状とその保全への国内外の認識

水産大学校 生物生産学科 須田有輔

<漁業>

13:40-14:00 定置網漁業と漁場環境・生態系保全

久二野村水産 野村 譲

14:00-14:20 対馬の漁業と海洋保護区

上対馬 海子丸 細井尉佐義

<保全・調査・教育活動>

14:20-14:40 愛知県表浜海岸と「愛知目標」

表浜ネットワーク 田中雄二

14:40-15:00 大分県中津干潟の生物多様性保全と海域利用

水辺に遊ぶ会 足利由紀子

15:00-15:20 海ゴミの汚染拡大とNGOの国際連携

J E A N 小島あずさ

<産業>

15:20-15:40 漁業者による沿岸環境の保全・再生・管理

貝殻利用研究会 田中丈裕

<総合討論>

15:50-17:00 日本における海洋保護区のあり方と2012年海洋保護区国際ネットワークへの道のり

【沖縄】

●【第483回沖縄大学土曜教養講座/NACS-J生物多様性の道プロジェクト】

フォーラム「地域を知るコツ！」～生物多様性地域戦略につながる第一歩～  
地域の自然を守るには、まず現状を把握することが必要です。自然を把握する調査には、主に行政や研究者や NGO などが行う大規模・広域的な調査と、地域の市民が地域密着で行う調査の二通りがあります。どちらも大切なデータとなりますが、現在、市民調査の結果が行政の計画などに活用されることは少ないため、今後どのように生物多様性地域戦略に反映していけるか、つまり市民が地域戦略などの計画づくりに参加することができるのかが大きな課題となっています。フォーラムでは、大規模・広域調査と市民調査それぞれの特徴や意味を掘り下げ「市民と行政が対話しながらつくり上げていく生物多様性地域戦略」につながる第一歩としたいと思います。

日にち：2011年10月8日（土） 午後1時～5時

場 所：沖縄大学 2号館 306 教室

参加費：無料 資料代：300 円

対象：一般の方、エコツアーガイド、市民調査経験者、NPO、行政、教員、学生など

#### 【第1部】

13:15 話題提供「地域を知るコトで見えてくる」

(1)「沖縄島のサンゴ礁の現状（沖縄県自然保護課課長・富永千尋）」

平成21年度サンゴ礁資源情報整備事業の結果とそれに基づく保全計画を紹介。

(2)「久米島応援プロジェクトによる久米島での活動事例」（WWF ジャパン・権田雅之）

WWF ジャパンが作成した南西諸島マップや久米島で展開しているプロジェクトの紹介。

(3)「地元の住民自身がモニタリングをすることの重要性－把握→比較→展望、数字（データ）から言葉（認識）への脱却－」（琉球大学／沖縄県サンゴ礁保全推進協議会 会長・中野義勝）

地域の人たちが自分で調査データを取ることの重要性を、幾つかのコミュニティを例に紹介。

(4)「市民調査で自分たちの地域づくり」（日本自然保護協会事務局長・開発法子）

科学・歴史・文化などのさまざまな市民調査の紹介。市民調査から保全計画作りへ。

#### 【第2部】

14:45 グループディスカッション「地域を知るコツ！を考えよう」

（ファシリテーター：しかたに自然案内・鹿谷麻夕） 1 テーブル5～6名のグループを作り、当日配布する「地域を知るコツ！ アンケート」をもとにディスカッション。  
なお、ご参加にはお申し込みが必要です。下記の担当者まで、ご氏名・ご所属をご連絡ください。

■申込先：日本自然保護協会 保護プロジェクト部 安部

FAX：03-3553-0139／e-mail：[abe@nacsj.or.jp](mailto:abe@nacsj.or.jp)

会場についてのお問い合わせは、下記にお願いします。

■問い合わせ先；沖縄大学地域研究所 TEL：098-832-5599

■詳細は以下の NACS-J ウェブサイトをご覧ください

<http://www.nacsj.or.jp/katsudo/waytob/2011/08/-in.html>

主催：日本自然保護協会（NACS-J）

共催：WWF ジャパン、沖縄大学地域研究所、沖縄・生物多様性市民ネットワーク

後援：沖縄環境ネットワーク、環境省那覇自然環境事務所、沖縄県サンゴ礁保推進協議会

## 4. きらめく動物たちの命と海 【久保田信の白浜だより(その11)】

### 番所崎に 524 種の貝殻

京都大学瀬戸臨海実験所近くの北浜を中心とした番所崎の磯浜で、過去7年間に打ち上げられた大型の貝殻は 524 種類にもなる。その数は予想以上に多く、まだカウントに入っていない微小貝も含めると、貝殻だけでいったい何種になるのだろうか？岩礁と砂浜が交互し、転石が多く、季節によっては海藻が繁茂するなど、様々な住み場所が北浜から塔島、そして円月島にまわっていく番所崎の方々にあるので、多種多様な貝類が住める海岸となっているのだ。番所崎を1周しただけで、最低数十種、多い時は数百種が楽に集められる。

番所崎一帯には、ごく普通に生息しているのに、打ち上げ収集で貝殻が1個も見つからない種もある。潮上帯に生息するイボタマキビがその代表種である。イボタマキビの貝殻がすぐにこなごなになってしまうとは思われないので、どうして打ち上げ物の中で見つからないのか、不思議である。一方、明らかに食用とされた後で捨てられたホタテガイや、自生しないが、釣り餌や食用になったサザエなどもある。大きなマガキの貝殻も、食用にされ捨てられたものだ。

### 様々な生息場所からの貝殻の打ち上げ

打ち上げには田辺湾よりずっと南方の沖合や深みに生息するものが、黒潮で運ばれてきて、漂着するものもある。10年間に1回だが、「生きている化石」オウムガイが漂着することもある。オウムガイより小形だが、同じような生活を送るタコブネの貝殻も少なく、数個体の発見だ。

陸生や淡水の貝類も打ち上がる。それは、瀬戸臨海実験所構内などに生息するカタツムリ類が主なものだ。この他、稲への害で知られる外来種のジャンボタニシ（スクミリンゴガイ）の漂着がある。綺麗な筋の入った殻は薄いので、浮きやすい。ジャンボタニシが流れ着いた記録は、南紀生物誌 41 巻に報告したが、1993 年に初めて見つけた時は、見慣れない不思議な海産の巻貝だととまどった。日本ではほとんど知られていないオオクビキレガイという、地中海沿岸原産のカタツムリの一種の打ち上げ例もある。南紀生物誌 44 巻に、カタツムリ類の専門家で白浜町在住の湊 宏先生や、貝類に詳しい土生紳吾さんと一緒に報告した。その後、生きたオオクビキレガイが付近に生息しているのが確認された。

世界の貝類に詳しい和歌山市在住の小山安生先生が、北浜周辺で打ち上がった貝殻について、最終的にすべて同定して下さる。貝類のような大きな分類群では、専門分野が細分化され、専門家ごとに奥深い研究が進んでいるのだが、なんでもわかる研究者がいなくなりつつある中で、小山先生は貴重な生き字引なのである。524 種類を記録したリストは、小山先生と共著で南紀生物誌 44 巻 1, 2 号にまたがってまとめられた。内訳は、巻貝類が圧倒的に多く 381 種類、次が二枚貝類で 133 種類である。これらの貝の中には、ホシダカラガイのように、日本北限を記録した種もいくつもあった。たった 1 個体だけのミソラフトコロは日本新記録種とのことで、小山先生は南紀生物誌 46 巻で報告された。北浜に打ち上げられた貝には、和歌山県で初めて記録された種類もいくつもあった。また、紀伊半島が分布北限として知られている種類も多種類で確認できた。

### 打ち上げられた貝殻の種類の記録更新中

2004 年 7～8 月の連続の台風時には、打ち上げられた貝殻の中にこれまで発見されていなかった種類が次々と見つかった。そのうちの 4 種を大きな貝殻から順に挙げてみよう。幼児のこぶし大のタツマキサザエ（図）、それより少し小さいマンジュウガイ、数 cm くらいのキナレイシ、そしてヒメホシダカラガイである。いずれも、ごく少数だけの発見である。残念ながら、どの貝殻も、死亡後に時間がかなり経っているせいで、表面の光沢は消え、貝殻の一部は破損していた。

ともかく、延長 300m ほどの北浜という小さなエリアに、これほどの多くの種類の貝類が打ち上がるのは、全国的にも珍しく、まさに「宝の海」だ。死んだ貝殻なので、気楽に出現種を網羅収集できる。うまく割れたものだと内部構造までわかる。何よりも、それぞれの種の一生に思いをはせることができる。それぞれの個体が、親貝からどこで、どのように生まれてどれくらいの間で成長・成熟し、子孫をつくって死んでゆくか。いわゆる衣

食住をも明らかにした個々の生活史を窮め、種の存続が可能かどうかを確かめてゆくことが、生物学では最も大切で基礎的なことなのである。だが、とっかかりやすく究明しづらい海洋生物の生物学的性質のため、このような知見がまだほとんどない種類ばかりのままである。これは、やればみな新しいデータとして価値あるものばかりということになる。



図. 瀬戸臨海実験所北浜に打ち上げられたタツマキサザエの貝殻。新鮮だと模様と光沢が美しくヤコウガイに近縁で重厚なふたがある。

## 5. 事務局便り：

- この「うみひろも」は「海の生き物を守る会」のメールマガジンです。配信が迷惑と思われる方は事務局までご連絡ください。
- 企画案などその他なんでも本会の活動に関することは、事務局あてにお寄せください。
- このメールマガジンは、毎月1日と16日の2回発行の予定ですが、都合によって遅延や中止もあります。配信を希望する方、送りたい方がありましたらアドレスをお知らせください。また、パソコンを使えない環境の方には印刷体でもお届けします。その場合は、郵送料をご負担していただくことがあります。
- このメールマガジンは転載自由です。海の生き物に関心を持っている方に広く読んでいただくために転送をお願いします。ただし写真を別の目的で使用する場合は事前にご連絡ください。海の生き物や守る運動についての情報など、また各地で行われている海の生物の観察会、研修会、その他の行事に関する情報もお寄せください。「うみひろも」のバックナンバーは、ホームページからダウンロードできます。
- 本会は自然観察会や講演会を各地で実施しています。各地で開催を希望される方、開催をお手伝いできる方は、ご一報ください。また、各地の団体との共催も行います。ごいっしょに講演会や観察会をしたいと思われる団体からも提案をお受けします。

- 本会への寄付をお寄せください。寄付も会費も同じ銀行口座「ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会」へお送りください。なお、送金される場合は、送金の内容について事務局にお知らせ下さい。

## 6. 編集後記

まだまだ暑さがこたえる猛暑が続いています。台風12号の被害が異常なほど広がっています。大地震、大津波、原発事故、台風、大雨など、日本は今年異常なほどの災害に見舞われています。原発事故はあきらかな人災ですが、多くの天災と言われる異常さも、よくよく考えれば、人間の所業が回り回って天災を引き起こしていると思われれます。私たちの生き方を考え直す良い機会ではないでしょうか。海の生き物は、そのような人間とは関わりなく生きていこうとしています。海の中にも放射能の影響は長く残り続けるでしょう。海の生き物と放射能について、今年の冬に講演会を企画したいと思います。ご期待下さい。  
(宏)

**海の生き物を守るためになにかしたい！というあなたに！**

## 会員募集中です！

会員は本会の趣旨に賛同できる個人・団体とします。会費は個人 2,000 円/年、団体 20,000 円/年。匿名による参加も可能です。会員は、当会の名前を使って各地で海の生物とその環境を保護・保全する活動を行うことができ、そのための助成金申請をすることができます。活動は当会の発行するメールマガジンなどを通して広く通知されます。入会希望の方は、事務局 [hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp) (向井) まで、氏名、住所、メールアドレスをお知らせください。



メールマガジン『うみひろも』第85号

2011年9月16日発行

発行&編集人「海の生き物を守る会」

代表 向井 宏

〒606-8244 京都市左京区北白川東平井町23-1

グリーンヒル北白川23

TEL&FAX:075-703-7205 メールアドレス：[hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp](mailto:hiromuk@mtf.biglobe.ne.jp)

ホームページ URL：<http://www7b.biglobe.ne.jp/~hiromuk/index.html>

銀行口座：ゆうちょ銀行 口座番号：10610-6673021 海の生き物を守る会

